



写真は数年前のものだが、CO患者を診察中の金子嗣郎先生。診察を受けているのは、患者の佐藤寿さん。佐藤さんは今は三池を離れて、千葉で暮らしているが健康はどうだろうか？

CO患者の精密健診始まる

五年越しの要求実る

組合、前進した諸取扱い期す

CO患者の、精密健診が始まった。これは三池労組の要求が実現したもので、三池労組はこの結果を土台に、CO患者に対する諸取扱いをさらに前進させることを期している。

三池労組は、死亡者はもちろん入・通院を余儀なくされた患者も業務上による取扱いを会社・労働基準監督署に要求してきているが、これまで現行労災法の制限、症状のCO中毒との因果関係などの不明確さ、なまを口実にもっぱら私傷ですまされてきた。

三池労組はこんどの健診で症状の因果関係を医学的に明確にし、かつ、諸取扱いをさらに前進したものにすると期している。

吉田院長、証言台に

九・二八坑内火災公判 豊富な診療経験土台に

九・二八坑内火災裁判は、一月十七日福岡地方裁判所で公判を開廷。金子・小原両医師とともに三池大爆発以来、長くCO患者の診療を続けている吉田誠彦・曙病院院長が、組合側証人として証言台に立った。そして、九・二八火災被災CO患者に対する診療経験にもつき、ごく原則的なCO中毒症について証言した。

この日尋問に立ったのは、本多で吉田証人に対する尋問を行なった、川崎坑内火災患者代表、と、初期検査をしていって、帰って来て、仏さんに報告して自分をなまめさせている。とにかく会社に責任をやらせて医師(吉田先生)の証言が読まなければ……と言っておられる。それから、原告団役員のおさより昨年の闘争の結果を報告して頂きました。

いっしょに頑張る

死亡患者家族、集会で決意

CO患者死亡者遺族集會を、一月二十二日午前十時より三池指まに傍聴に行くと、まああんなに導部で初めておこなりました。被災後の後遺症に苦しみなながら、どうどう病魔には勝てずじまなつたCO患者は、三池労組関係だけでも二十四名もおられます。近くに住んでおられる二十一名に連絡致しましたが、色々の都合で十名の家族が参加されました。寒さのところ、遠くから宮嶋さんと夫妻もおいで頂き、皆さんの元気なお顔を拝見してほんとうに安心致しました。

定期総会の開催へ

二月三日荒尾公会堂で

原告団

- 一、日時 二月十二日(日) 午前十時
- 二、場所 荒尾市公会堂
- 28日 ブロック別活動方針討議終了。
- 29日 CO患者家族の集會開催。三池指導部。
- 30日 上村裁判公判。福岡高裁。

原告団消息

1月6日 原告団、みいけ、編集会議。
7日 CO患者家族の会役員会議。
10日 CO患者家族の会役員会議。
11日 原告団役員会議。
17日 九・二八坑内火災裁判公判。福岡地裁。
18日 原告団班長会議。
20日 原告団、みいけ、編集会議。
21日 遺族会役員会議。
22日 CO患者死亡者遺族集會。三池指導部。
23日 武田潮さん(新港作業所)、天領病院入院。ブロック別活動方針討議開始。

曙病院入院CO患者から「誓」の寄せ書

本紙新年号の、花田福岡県評議員の四人の皆さんの、励ましの言葉に、曙病院入院中の早川静夫さんらCO患者仲間、新しい年への誓いを寄せ書き(上)にして、本紙に寄せた。写真は、寄せ書きを認めた皆さん。



誓い

早く現場に行きたい
お願ひ致します
小盛 勝

あけはの病院CO被災者一同